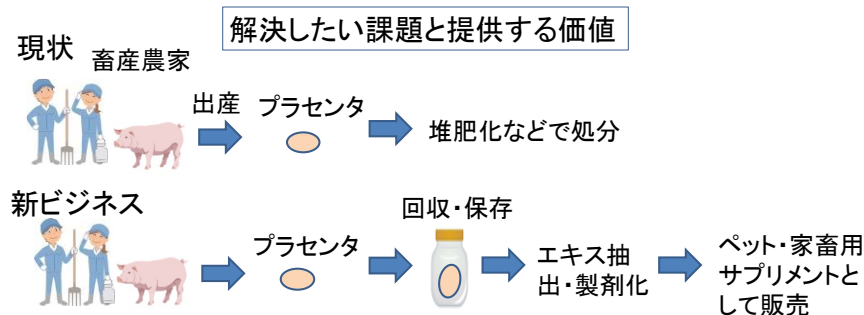


課題名

養豚場から出る未利用プラセンタの有効活用技術の事業化

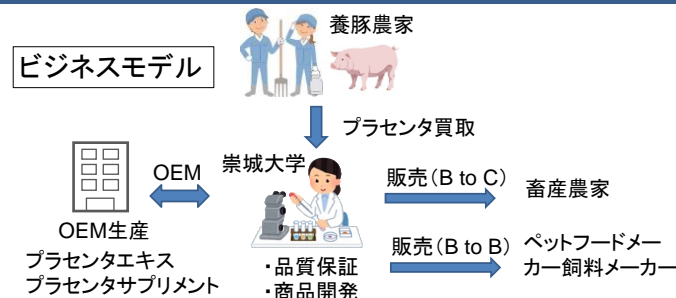
プロジェクトの概要

プラセンタ(胎盤)は免疫活性化、抗酸化、コラーゲン合成促進、などのさまざまな生理活性を持つ。本ビジネスモデルは現在ほとんど有効活用されていない養豚場から出るプラセンタを、家畜・ペットのサプリメントとして有効利用するものである。そのために、1) プラセンタの回収と保存、2)加工、3)活性評価、4)申請者独自シーズとプラセンタの組み合わせによる差異化、の各課題を検討し、ビジネスモデルの現実化を図る。



ビジネスモデル(申請時)

養豚場からプラセンタを買取り回収し、これをOEM製造でプラセンタエキス(製造原料)またはプラセンタサプリメントの製品として、畜産農家(B to C)、ペットフードメーカーおよび飼料メーカー(B to B)に販売するものである。この中で崇城大学は大学の培養技術・分析技術の強みを活かし、顧客に提供する製品の品質保証を行う。



活動計画(申請時)

これまで行ってきた顧客候補および獣医師へのヒアリングから、現在、右図に示す課題「母豚の夏バテによる出産数の低下」と「ペット・競走馬の皮膚病」があることがわかった。本提案により、これらの課題の実情をさらに詳細に検討するとともに、新たな顧客課題の発見を行う。

また、申請者グループが考案したプラセンタスプレー剤は、調査した限り類似商品はなく、顧客候補や獣医師からも「ユニークで面白い商品になる可能性がある」との意見をいただいている。本提案の活動の中でその有効性をさらに検討する。

解決しようとする顧客の課題の例

養豚業:母豚の夏バテによる出産数の低下



プラセンタサプリメントで夏バテ解消

ペット・競走馬:皮膚病が多い



プラセンタサプリメント(スプレータイプ)で皮膚病予防・治療